

1989年、厚田の夜空の“赤い光”



1770年に濃尾平野で目撃された赤気(低緯度オーロラ)
「猿猴庵随観図絵」(国立国会図書館所蔵)より

これは極地から離れた地域(緯度の低い地域)でまれに見られることから「低緯度オーロラ」と呼ばれています。

29年前にこの写真を撮影したのは札幌市の天文愛好家、川又一生さんでした。話を聞いてみると「まるで山火事のように空が真っ赤だった」そうです。

オーロラの原因は、太陽から飛んでくる電気を帯びた粒子です。粒子が地球に届くと地球磁場の影響で北極・南極

昨年、厚田小学校に掲示されていた写真パネルを見せてもらい、驚きました。厚田の小谷で撮影されたという夜空が写っているのですが、北の空が真っ赤に輝いているのです。撮影日は1989年10月21日と書かれていました。

この同じ日、陸別や稚内、北見など道内各地でも同じく夜空の赤い光が目撃されています。実はこれはオーロラだったのです。

オーロラと言っても、写真やテレビでよく見るような、北極や南極の夜空で緑色のカーテンが揺らめくものばかりではありません。地平線近くの夜空がぼんやりと赤く光るタイプもあり、

のまわりから大気に突入しますが、そのとき高速で空気の原子と衝突して、発光するのです。空の低いところでは緑色に光りますが、高いところ(高度約200km以上)では空気の状態の違いから、赤い光が出るのです。太陽活動が活発な時期や大きな太陽フレア(太陽表面での爆発)が起きたときなど、大きなオーロラが発生したら、北極から遠く離れた日本でも、その光が赤い光だけに見えることがあるのです。

赤いオーロラは、北海道だけでなく、ごくまれに本州で見られることもあります。昔から「赤気」などと呼ばれ、日本書紀には西暦620年の赤気が記されていますし、江戸時代、1770年の赤気は本州どころか九州でも確認されたほどです。

実はこの写真の少し前ですが、2017年9月にも、NHKのカメラマンが石狩市で弱いながらも赤いオーロラを撮影したというニュースが流れていました。場所は厚田区聚富。石狩市内でオーロラが見られるとは思ってもみませんでした。しかも2回もあつたとは。これから、ときどき夜空を見上げるようにしていれば、いつか3回目に出会いかもしれませんよ。

(志賀健司)



1989年に厚田で撮影されたオーロラ。画面中央、地平線付近の空が赤く光っている(撮影:川又一生さん)



撮影地点の現在の様子



石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物理学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。